

小豆地域の新たな高校づくりに向けた意見交換会（第3回）議事要旨

日時 平成22年9月10日（金）15:00～16:40

場所 小豆総合事務所北館1階会議室

1. 開会
2. 第2回会議の議事要旨
3. 議事
 - (1) これまでの意見（小豆地域）
 - (2) 小豆地域の統合校の教育内容（おおまかなイメージ）
 - (3) その他
4. 閉会

<主な意見>

①特進コースについて

- 高校入試が（普通科の中で、特進コースと普通コースから選択できる）二本立てになるが、他の県立高校ではどうなのか。
 - ―三本松高校や香川中央高校など普通科に国際類型等を設けた学校は、高校入試を二本立てで行っていたが、進級時の入替えはなかった。高松第一高校が同様の入試方法であるが、県立高校では初めてになる。
- 高松に行かなくても、島内でしっかりと教育ができるという新しいイメージを生むには、二本立てが良いと思う。
- （教員の意見を聴く会で）教員から、入試の二本立ては、入試後にクラス分けテストを行う従来のやり方と大差がないので無意味だという声がある。しかし、新しい学校に新しいスタイルを導入することは意味があるし、それにより生徒が競争意識を持つようになれば望ましい。
- せっかく入試で選抜した特進コースなのに、進級時に（進路希望だけで）入替え可能というのでは値打ちがない。特進コースへ上がるにはそれなりの試験等が必要だと思う。
- 統合校の定員を何人とし、そのうち何人を特進コースとするのか。イメージ図では特進コースを文系理系に分けているが、2クラスもつくれるのか疑問だ。特進コースを何人にするかによって、その性格というかレベルが決まる。
 - ―おそらく特進コースのクラスの中に文系理系の生徒が混在し、進路に合わせて少人数指導を行うスタイルになるだろう。
- 特進コースの合否は点数で決めるのか定員なのか。定員に満たない場合は点数が低くても合格させるのか。大学進学に特化したコースとして設置するならば、人数枠ではなくある程度のレベルを守る必要があるのではないかと。

②資格取得について

- 商業関係の資格取得の道はぜひ残してほしい。
- 多くの企業は簿記や情報関係の能力を求めており、有資格者はかなり有利である。普通科高校といえども、（就職を希望する生徒が）資格で負けないよう保障する必要がある。
- 地元企業から、工業系の選択肢をつくれないう話があった。

―工業系に対する島内のニーズがどのくらいあるのか。工業系の教育を行うには実習施設なども必要になる。普通科高校であれもこれも用意するのは難しい。看護師や介護士についても同じだが、例えば、インターンシップの受入れや「ふるさと学」の中で地元企業との連携を深めるという方法は考えられる。

③小中学校等との連携について

○島で唯一の高校として、小中学生或いは地元住民が高校の施設や人的資源を利用することも考えられる。

○先日、小中一貫教育校である品川区立大崎中学校・浅田校長先生の講演会で、中高一貫教育は学校設置者が都道府県と市町に分かれるのでうまくいかない、という話があった。小豆島での中高一貫教育について、どう考えるのか。

―高松北高校のように中高の設置者がともに県の場合は併設型と呼ぶ。市町立中学校と県立高校の組み合わせは連携型と呼ぶ。この場合は高校入試を簡便にし、地域の生徒をすべて受け入れようというスタイルが主で、今ここで話している特進コースを設けて競争意識を高めるという方向とは正反対の考え方である。

○統合校を中心に小豆島の教育を活性化する方策はないか。幼・小・中もレベルを上げて、全国に発信できる教育システムを築くことができれば素晴らしい。

○小豆島高校の生徒が小中学生にスポーツの指導をしている。野球、陸上など7競技で実施し、今年は約70人が参加し、週1回小豆島高校で高校生と一緒に練習している。

○小豆島高校野球部が行っているオーリーブ収穫のボランティア活動などがもっと拡大すれば良いと思う。昨年のオーリーブ収穫祭には、教員生徒150人が参加した。

○小学校から英語教育を導入し、留学生や中高生と交流するイングリッシュ・キャンプというイベントを行っていた県がある。

○土庄高校商業系列の生徒ならば小学生にパソコンの指導ができる。人に教えるためには自分も勉強する。そういう相乗効果を生みながら、全体のレベルを上げていくことができると思う。また、小中学生が地元の高校生に親しみと憧れを感じるようになれば、統合校へ進学する目的意識も高まる。

④定時制課程について

○定時制について、サテライト方式は検討できないか。

―まだ十分に議論が煮詰まっていない状態だ。

○全日制に入れない生徒にはそれなりの理由がある。その生徒たちの受け皿として定時制は必要だと思う。

⑤その他

○学習面以外でも特色ある学校にしてほしい。島には農村歌舞伎もあるし、音楽や部活動を盛んにして、島外からも生徒を呼べる魅力をもたせてほしい。